

会 議 録 ( 1 )

会 議 の 名 称	平成28年度 第3回入間市総合教育会議
開 催 日 時	平成 28年12月20日(火) 午後3時45分 開会、午後17時35分 閉会
開 催 場 所	市庁舎 第4委員会室
議 長 氏 名	-
出席委員(者)氏名	田中龍夫、西澤泰男、河村佳樹、青山友子、橋本清美、高山茂
欠席委員(者)氏名	なし
説明者の職氏名	企画部副参事 浅見泰志、教育総務課長 齋木茂男
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	(すべて公開) 1. 開 会 2. 挨 拶 3. 報告事項 (1) 公共施設マネジメント事業計画の策定について (2) その他 4. 協議・調整事項 (1) 教育大綱の策定について (2) その他 5. その他 6. 閉 会
傍 聴 者 数	なし

配 布 資 料	資料 1 : 第 2 期入間市教育振興基本計画 資料 2 : 第 6 次入間市総合計画・前期基本計画(抜粋)  いずれも平成 2 8 年 1 2 月 2 0 日時点における案(未定稿)
関係者職氏名	教育総務部長 齋藤光明、教育総務課長 齋木茂男 教育総務部参事兼学校教育課長 早川等、教育総務課主幹 鹿山泰隆 生涯学習部長 長谷川芳明、生涯学習部次長 新見輝明
事務局職員職氏名	企画部長 田中利之、企画部次長 國田清男、企画部参事 鳥山政之、 企画部副参事 浅見泰志、企画課主幹 宮澤昌樹、 企画課主事 齊藤正文
会議録作成方法	要点筆記

## 会 議 録 ( 2 )

### 議 事 の 概 要 ( 経 過 ) ・ 決 定 事 項

#### < 報 告 事 項 >

##### 公共施設マネジメント事業計画の策定について

- ・ 公共施設マネジメント事業計画の概要と今後の進め方について、企画部から説明した。

#### < 協 議 ・ 調 整 事 項 >

##### 教育大綱の策定について

- ・ 人間市教育振興計画をもって人間市教育大綱とすることとした。
- ・ 「子ども未来室事業」の趣旨が捉えづらいので、人間市教育振興計画に説明を追記することとする。

##### その他

- ・ 教師の資質について問題になっているが、経験の浅い教師については、周りのサポート体制も重要である。

会 議 録 ( 3 )

発 言 者	発 言 内 容
	<p>( 委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する )</p> <p>&lt; 進行 : 田中部長 &gt;</p> <p>1 . 開会</p> <p>2 . 挨拶</p> <p>3 . 報告事項</p> <p>( 1 ) 公共施設マネジメント事業計画の策定について</p>
田中部長	<p>企画部から説明願う。</p>
浅見副参事	<p>資料は無く、口頭での報告とさせていただきます。</p> <p>これまで、教育委員の皆さまには、「公共施設マネジメント白書」「公共施設最適化基本方針」「公共施設等総合管理計画」という、公共施設マネジメントに関連する計画等について、それぞれがまとまった時点で説明してきた。本日は、現在策定を進めている「公共施設マネジメント事業計画」の概要と今後の進め方について説明する。</p> <p>&lt; 事業計画の目的 &gt;</p> <p>公共施設マネジメント事業計画は、平成 2 8 年 3 月に策定した「公共施設等総合管理計画」に基づき、施設ごとの再整備や再配置、維持管理の具体的な取組方向を示すものである。また、地域ごとの拠点施設の考え方や配置についても考え方を示すものとなる。</p> <p>&lt; 事業計画策定の条件 &gt;</p> <p>事業計画は、市の重要計画である「総合計画」「行政改革大綱」「ま</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>ち・ひと・しごと創生総合戦略」と整合を図って策定するものである。</p> <p>「総合計画」における10年間のまちづくりの目標である「みんなでつくる 住みやすさが実感できるまち いるま」、「行政改革大綱」の基本理念である「行政サービスの最適化」、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」のテーマである「元気な子どもが育つまち」といった、これからのまちづくりの基本的な方針に沿って公共施設マネジメントを進めるという考え方であり、事業計画における施設の再整備・再配置についても、こうした基本的な方針に則って具体化していく予定である。</p> <p>&lt;再整備・再配置の方向性&gt;</p> <p>再整備・再配置の方向性について説明する。</p> <p>まず、基本的な視点として4つを取り上げている。「生活者の視点に立った施設の配置」「地域コミュニティの維持発展につながる開かれた拠点の設置」「地域のよりどころとなりうる施設機能の保持」「経済効果を重視した施設の整備」である。</p> <p>この4つの視点は、公共施設を地域の拠点とする考え方を持ったもので、公共施設を中心とした地域コミュニティの基盤整備を目指した考え方である。これは、地域コミュニティというソフトの面から公共施設の再整備・再配置を考えるものである。</p> <p>次に、ハードの面では「公共施設等総合管理計画」で示したとおり、「サービス内容と施設機能の見直し」「施設の整備・運営の適正化」「施設の広域化」「施設の計画的除却」という4つの視点をもって、再整備・再配置に取り組もうという考え方である。</p> <p>&lt;取組の基本方針&gt;</p> <p>再整備・再配置の方向性を踏まえた公共施設整備の基本方針について説明する。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>この基本方針については、市内各地区に整備されている「地域対応施設」と、市内全域をカバーする「広域対応施設」とに分けて説明する。</p> <p>まず、「地域対応施設」については、4つの基本方針を掲げている。</p> <p>市内9地区に地区センターを設置することとし、施設は既存の支所・公民館を活用すること。</p> <p>小学校と中学校は、それぞれ9地区に1施設ずつの設置を基本とすること。</p> <p>公立保育所は、市内6地区に1施設ずつの設置を基本とすること。</p> <p>地域対応施設の複合化に向けては、地区センターと小学校を拠点とする整備を検討していくこと。</p> <p>次に、「広域対応施設」については、3つの基本方針を掲げている。</p> <p>「広域対応施設」とは、市民会館、産業文化センター、健康福祉センター、市民活動センター、博物館等を想定している。</p> <p>建設当初と現在との社会環境の変化を捉え、将来にわたる施設の必要性を踏まえて各施設の整備方向を検討すること。</p> <p>提供すべき行政サービスの見直しに基づく施設の機能、役割の見直しを踏まえ、存廃を含めて整備方向を検討すること。</p> <p>広域連携、民間へのサービスの移行の可能性を踏まえた整備方向を検討すること。</p> <p>その他「再整備・再配置に伴い留意すべき事項」として、「既存施設の活用と借地の計画的な解消」「移動手段の確保など施設の利用促進に向けた配慮」「歴史的背景、人口バランス、地理的状況など、地区特性への配慮」「廃止施設の有効活用」を掲げている。</p> <p>なお、「維持管理及び施設更新の基本方針」としては、大規模改修等の実施基準や廃止施設、統廃合をする施設、複合化する施設等の整備基準を</p>

発 言 者	発 言 内 容
田中部長	<p>示した上で、具体的な計画をまとめる予定である。</p> <p>&lt;事業計画策定の進め方&gt;</p> <p>現在、庁内での検討を進めている。具体的には、事務局が作成した案をもとに施設所管課と協議を行い、各施設の再整備・再配置の方向性について共通認識とする。続いて、各地区在住職員から、地域ごとの再整備・再配置に対する意見を募り、それを踏まえて今年度中に市としての考え方をまとめた「事業計画」を策定する。</p> <p>平成29年度には、「事業計画」についての地域住民との意見交換を行う予定である。方法としては、市民説明会と地区懇談会を予定している。</p> <p>地区懇談会というのは、市内9地区で、それぞれ地区住民10名程度の協力を得て行う協議会で、メンバーとしては区長、公民館活動団体の長、PTA役員、民生・児童委員などをお願いしたいと考えている。懇談会では、庁内でまとめた事業計画の案について、各地区4回程度の意見交換を行いたいと考えている。</p> <p>また、地区ごとの市民との意見交換では、できれば子どもたちの意見を聞く機会も設定していきたいと考えている。</p> <p>こうした地区ごとの意見交換などを通じて市民の意見を反映した「事業計画」をまとめ、平成29年度末には計画を確定したいと考えている。</p> <p>したがって、計画に基づいた再整備、再配置、維持管理に取り組むのは、平成30年度からとなると想定している。</p> <p>来年度は、公共施設マネジメント推進課が設置されるが、その課だけで対応できるものではなく、施設所管課や市民と連携して検討しなければならないと考えている。</p> <p>ただいまの説明について、質疑等があれば発言願う。</p>

発 言 者	発 言 内 容
河村職務代理者	小中学校を、9地区に1校ずつ配置するとのことだが、学区も見直すのか。
浅見副参事	学区も検討する。しかし、公共施設マネジメントの観点だけでは整理できないため、教育委員会と共に検討していくことになる。
青山委員	人口バランスも考慮しなければならないので、各地区1校ずつという点については、弾力的に考えていただきたい。
浅見副参事	人口バランスについても当然考慮しなければならない。ただし、事業計画は30年計画(10年ごとに見直し)であるので、30年後の人口バランスも見据えた統廃合とする必要がある。
西澤教育長	東町小学校・中学校、豊岡小学校・中学校は基地跡地にあり、基地跡地利用計画の中で設置されたものである。この利用計画等の変更等に問題は生じないか。
浅見副参事	基地跡地利用計画に限らず、それぞれの施設について、法令等の問題は出てくるものと思われる。それらは、具体的な再整備・再配置の計画を作っていく中で確認しながら進める。
田中市長	2年前に教育委員会で統廃合の基準を策定したが、その後、公共施設マネジメントの観点を踏まえ、具体的にどの学校を統廃合するのかという検討はされてきたのか。
齋藤部長	広報いるま 7月1日号に公共施設マネジメントの記事が掲載された。これにより、9地区に小中学校が1校ずつ配置される計画が市民に周知さ



発 言 者	発 言 内 容
	<p>れたことになる。このことに伴い教育委員会でも、現在の学区の状況や、数年先の生徒数・学級数の推移等の検討を定例教育委員会の中で行っている。今後、さらに詳しい検討を進めていく。</p>
田中市長	<p>平成29年度の初旬には、学校の統廃合の案が示せるのか。</p>
浅見副参事	<p>直近の統廃合の対象についてはある程度具体的な案を、20年・30年後については複数案を示し、市民の意見を頂くということを想定している。</p>
田中市長	<p>30年の計画であっても、まず初めに取り掛かる事については、具体的な提案があるべきである。それは提示できるのか。</p>
浅見副参事	<p>現在検討中であり、できる限り具体的に示したいと考えている。</p>
高山委員	<p>地区センターと小学校を複合化した施設を検討しているのか。</p>
浅見副参事	<p>地区センターと小学校はそれぞれ別の複合施設として、各地区に2つの拠点を設置することを想定している。現在の公民館を活用して地区センターを設置し、現在の小学校を保育所や学童保育室と複合化することなどを想定している。</p>
西澤教育長	<p>行政と教育では、地区割りの捉え方が違う。9地区の区分を決めるにあたって、行政と教育の間で意見交換はしたのか。</p>
浅見副参事	<p>具体的な意見交換はこれから行う。今回示した9地区は、人口バランスは取れているが、年齢構成までは考慮しきれていない。今後、年齢構成も</p>

発 言 者	発 言 内 容
高山委員	<p>含め、検討していく。</p> <p>行政区と学区が一致していないことにより、不合理な点があるのは事実である。両者の整合を図る検討をするときに、子どもたちのためにはどうすべきか、という視点が欠落しないようにしていただきたい。</p> <p>3．報告事項 (2)その他</p> <p>特になし。</p> <p>4．協議・調整事項 (1)教育大綱の策定について</p>
田中部長	<p>大綱については市長が策定することとされているが、策定にあたっては、市長と教育委員会との間で十分に協議し、調整を尽くすこととされていることから、総合教育会議における主要な協議事項になる。</p> <p>現在、平成29年度から5年間の「第6次入間市総合計画・前期基本計画」を策定中であり、それと並行して教育委員会事務局においては、「第2期教育振興基本計画」の策定を進めている。</p> <p>まずは、「第2期入間市教育振興基本計画(原案)」についてご報告いただき、その内容や、これを大綱に代えるかどうかの議論をしていただきたい。</p>
齋木課長	<p>第2期入間市教育振興基本計画(原案)について説明する。</p> <p>第2期入間市教育振興基本計画は、第6次入間市総合計画 前期基本計画との整合性を図りながら作成している。また、本計画が、市長が定める</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>「人間市教育大綱」に代わるものとなるよう作成した。</p> <p>この原案は、前回の総合教育会議での意見を踏まえ、企画課、教育総務課で文言等の修正を加え、定例教育委員会にて協議を重ねたうえで、10月に庁内の意見聴取、11月に市民に対するパブリックコメントを実施し、そこで頂いた意見を考慮し、作成したものである。</p> <p>今後、本日の会議での意見を踏まえ、修正及び参考写真の挿入を行い、1月定例会にて議案として上程する予定である。</p> <p>計画の主要な点、前回の素案と大きく変わった部分についてご報告する。</p> <p>&lt;第1章 総論&gt;</p> <p>「1 趣旨」については、文言等を若干修正した。</p> <p>「3 計画の位置づけ」には、「人間市教育振興計画をもって人間市教育大綱に代えることとします。」という一文を追記し、本計画と教育大綱との関係の位置づけを改めて示した。</p> <p>教育振興基本計画は、市の総合計画と併行して策定作業を進めることで整合を図った。このことから、本計画が、市の計画と整合性のとれた計画として、大綱に代わるものとする位置づけとするもの。</p> <p>&lt;第2章 基本理念と基本方針&gt;</p> <p>素案では章の見出しが「人間市教育行政の基本的な考え」であったが、原案では「基本理念と基本方針」とし、構成を変更した。</p> <p>「1 基本的な考え」では、前段で市の政策をもとに本計画を進めていく考え方を示し、後段で教育行政においてこれから進めていく重要な3つの柱を示した。</p> <p>「2 グランドデザイン」は、人間市総合計画の10年間のまちづくり目標に向かい、教育行政の基本理念である「豊かな人間性の育成」を目指</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>し、「学びと実践があふれるまち」をテーマに学校教育、社会教育、ともに教育行政を展開していくものとしている。</p> <p>&lt;第3章 施策の展開&gt;</p> <p>総合計画の第2章「学びあいのまちづくり」の政策が主だが、関連する他の章にある政策についても取り入れた施策展開の構成としている。</p> <p>&lt;第4章 計画の推進にあたって&gt;</p> <p>「1 社会全体で教育の向上に取り組むために」では、国、県との連携や市民との協働等が必要であること、「2 計画を推進するために」では、進行管理を行い、市民へ周知し、予算の効率的な執行を図っていくことを記載している。</p> <p>「3 指標一覧」で、それぞれの施策の指標を示し、毎年行う教育事業の点検評価の中で進行管理を行い、毎年発行する、「入間市の教育」の中で市民へ周知していく。</p>
田中部長	<p>まずは、今説明のあった原案の内容について質疑応答や意見交換を行う。最終的には、この基本計画をもって教育大綱に代えるかどうかという判断をしていただきたい。</p>
青山委員	<p>パブリックコメントではどのような意見があったのか。</p>
齋木課長	<p>庁内の意見聴取では、文言の修正等の細かい指摘があり、市民からは特に意見は寄せられなかった。</p>
田中市長	<p>第1章の3に追記した「入間市教育振興計画をもって入間市教育大綱に代える」という言葉は「入間市教育振興計画をもって入間市教育大綱とす</p>

発 言 者	発 言 内 容
田中部長	<p>る」と言い切った方が良いのではないか。</p> <p>そのように変更するということでよろしいか。</p>
委員一同	<p>異議なし。</p>
田中市長	<p>子ども未来室事業とは、誰を対象に、何をするのが分かりにくい。発達障害のある子どもを対象とする事業ではないのか。</p>
早川参事	<p>子ども未来室事業の目的は、子どもたちの自立と、各学校間の接続を滑らかにすることである。その中の1つとして発達障害のある子どもの支援も含まれる。</p>
田中市長	<p>発達障害への対応により、学校間のスムーズなつながりや不登校の減少に繋がっているのではないか。実際には、発達障害を中心とした事業のように感じられる。表現があいまいなので、もっとはっきりとさせた方が良いのではないか。</p>
高山委員	<p>確かに、分かりにくい部分もある。</p> <p>不登校や校内暴力などの問題の原因を探っていくと、発達障害のある生徒への対応がうまくいっていないことであつたため、そのような生徒に適切な対応をしなければならない、ということから始まった事業だと思われる。その後に、学校間の滑らかな接続も重要である、ということが分かり、その対応も始めたということではないか。</p> <p>子ども未来室事業は非常に重要な取り組みだが、これだけを行っていれば入間市の教育の問題が解決できるわけではない。もっと広い視点で取り組んでいかなければならないとは思うが、現時点では、入間市は子ども未</p>

発 言 者	発 言 内 容
河村職務代理者	<p>来室事業に特化して取り組んでいるということではないか。</p> <p>目指すものはノーマライゼーション社会の樹立だと思う。子ども未来室事業の説明が、発達障害への対応に偏ったものになっているので、ノーマライゼーション社会の樹立を目指しているということがわかるような説明にすれば良いと思う。</p>
青山委員	<p>発達障害のある生徒も含めて学級のあり方を考えるのが基本であり、それによって不登校やいじめが減っている。目指すところは学校の安定ではないか。</p>
高山委員	<p>子ども未来室事業は、あくまでも手段であって目的ではない。</p>
西澤教育長	<p>第3章の「3 幼児・学校教育」で、子ども未来室事業が「第1項 学校教育の充実」と「第2項 子ども・子育て支援の充実」にまたがっているので分かりづらい。第1項は学校間の滑らかな接続、第2項は発達障害支援に関する内容である。それらを分かりやすく記載すると良いかもしれない。</p>
高山委員	<p>子ども未来室事業は、学校教育だけではなく福祉等も関係する。</p>
田中部長	<p>第1項の子ども未来室事業の説明には「就労までを見据えた」とあるが、どのような趣旨か。</p>
西澤教育長	<p>例えば、県立入間わかくさ高等特別支援学校の職業学科では、全員の就労を目指しているが、今後、地元企業との連携等も考えられる。そのようなことも子ども未来室事業のねらいの一つである。</p>

発 言 者	発 言 内 容
田中市長	<p>「未来室」ではなく、バリアフリー、ノーマライゼーション等の直接的な文言で、事業の内容を分かりやすくしてはいけないのか。</p>
齋藤部長	<p>小中一貫教育や、保幼小の連携、教科指導員の配置など、最近5,6年で、教育委員会は新たな取り組みを実施してきた。その総称として、入間市では「子ども未来室事業」と呼んできたものと思われる。これは入間市独自のネーミングであるので、一般の方には分かりづらい表現となっているのかもしれない。</p>
早川参事	<p>事業の開始当初は、発達障害の関係が中心であった。発達障害の問題を解決するうえで、保幼小の接続が重要であることがわかった。さらに、学校間の滑らかな接続も重要であることがわかった。その接続の中で、特に小中の接続に力を入れてきた。というように、派生し、広がってきた事業である。広い意味で使われている名前なので分かりにくいかもしれないが、最近は多くの自治体で採用され始めている名前である。</p>
田中市長	<p>説明を聞いて理解できたが、小中一貫教育等は、それぞれの事業ごとに認知しており、それらが子ども未来室事業の一部であるということはあまり知られていなかったのではないか。</p>
青山委員	<p>パンフレットを見ればわかるようになっているが、それがどの程度広まっていたかは不明である。</p>
田中部長	<p>「未来室」と聞くと、組織のようなイメージをもたれるかもしれない。</p>
西澤教育長	<p>1つ1つの事業は昔から実施されていたものである。それらを「未来室</p>

発 言 者	発 言 内 容
齋藤部長	<p>事業」という名で関連をもたせていったところ、0歳から就労までをつなげていこうという流れになったものである。</p> <p>子ども未来室事業についての知識を前提とした計画書となっているので、一般の市民が見たときに理解しにくいのだと思う。計画書は、一般の市民に分かりやすいものとしなければならないのが原則であるので、可能であれば注釈を入れるなどして、わかりやすくしたいと考える。</p>
田中市長	<p>パンフレットを見ても理解が難しかった。子ども未来室事業の目的は何で、実施する事業は何なのか、ポイントをおさえて視覚的に分かりやすくしたいところである。</p>
田中部長	<p>子ども未来室事業が「政策」であるならば、第1項「学校教育の充実」、第2項「子ども・子育て支援の充実」、第3項「学校施設の整備」と並べ、1つの項にしてしまっても良いのではないか。</p>
齋藤部長	<p>第2章の1の の部分が、子ども未来室事業の説明のような文章となっている。この部分が、「子ども未来室事業」という言葉が記載された最初であるので、この文章を修正することで、これ以降を理解しやすくする1つの手段である。</p>
田中部長	<p>その部分で、子ども未来室事業について説明を加えることで、人間市独自のものとしてアピールできるので良いと思う。記載の方法については、後ほど検討していただきたい。</p> <p>その他に何かあるか。</p>



発 言 者	発 言 内 容
高山委員	第4章の「3 指標一覧」において、学校における学習についての充実度が105%となっているが、どういう意味なのか。
早川参事	全国の平均値を100%とした時の値である。
高山委員	この項目だけが全国平均との比較であるならば、その旨を記載すべきである。
田中部長	では、最後に確認であるが、入間市教育振興計画をもって入間市教育大綱とするということで決定して良いか。
委員一同	異議なし。
田中部長	では、今回の協議をもとに、教育委員会で入間市教育振興計画を修正していただくこととする。  (2)その他
田中部長	事務局としては、「その他」について用意していないが、委員の皆様から何かあるか。
田中市長	近年、学校教師のレベルが低下してきているという話題はよく耳にする が、先日、保育士の資質も低下してきているということを知った。その原因は、兄弟がいない、地域との関わりが希薄であったなど、経験が少なくなったことだと思われる。この課題の対策は何かあるか。
西澤教育長	教師になってからの、国や自治体での研修システムは整っているが、そ

発 言 者	発 言 内 容
青山委員	<p>の研修の効果がしっかりと発揮できているかはわからない。教師になる前の教育や、資質の問題もある。</p> <p>また、全県下で、教師になって1年目で辞めてしまう人が増えてきている。その原因は病気等ではなく、教師に向いていなかったから、というように、本人の考え方が定まっていなまま教師になってしまったというケースがほとんどである。</p> <p>保護者の見る目が厳しくなっているのも原因の1つだと思う。教師を育てるという気持ちで、新米の教師をもう少し温かく見守っていただきたい。</p>
高山委員	<p>教師になりたいという人が少なくなっている。確かに、教師の仕事は非常に大変であるが、それ以上に情熱を持って生徒に向き合える教師が以前はたくさんいた。</p> <p>一方で、教師を周りがサポートしていこうとしていくことも重要であるし、もちろん教師自身も勉強を積極的に行うことも重要である。</p>
田中市長	<p>我々が、入間市の教師は良いと言い続けることも良い効果があると思う。このことで教師自身が良い教師でありたいという自覚を持つということが出来るかもしれない。</p>
	<p>5 . その他</p>
田中部長	<p>事務局から連絡事項を申し上げる。</p>
鳥山参事	<p>入間市教育振興基本計画と、入間市総合計画前期基本計画は、いずれも現時点の内容で概ね確定となる。</p>

発 言 者	発 言 内 容
田中部長	<p>なお、資料の最後に、人間市振興計画審議会からの答申を載せてある。</p> <p>今後、本基本計画に基づく施策の推進にあたっては、答申にある附帯意見も尊重することとなるので、後ほどご確認いただきたい。</p> <p>次回は、1月～2月に、次年度の事業を含めた協議をさせていただきたいと考えている。</p> <p>以上で閉会とする。</p>

議事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

平成29年 1月 27日

市 長 の 署 名

田中 龍夫

教 育 長 の 署 名

西澤 泰男